

ROTARY CLUB
ITOIGAWA



2025～2026年度

R I テーマ よいことのために手を取りあおう

地区運営方針 ロータリーで善の循環を

糸魚川RCテーマ みんなでよい活動しよう



週報

糸魚川



2026.2.5
第3066例会
No.28

◆会 長 赤星賢二 ◆クラブ会報雑誌 長谷川淳一
◆例 会 場 ヒスイ王国館 糸魚川市大町1-7-11 TEL.025-553-1210
◆例 会 日 毎週木曜日 12:30～13:30
◆創 立 1960年9月10日 ◆承認 1960年10月12日
◆事 務 局 新潟県糸魚川市寺町 糸魚川商工会議所内 TEL.025-552-1225
◆糸魚川RC HP <https://www.itoigawa-rc.jp/>
◆第2560地区HP <https://www.rid2560niigata.jp/>

● 本日のプログラム ●

- ・ 点 鐘
- ・ 国家 君が代
- ・ 四つのテスト
- ・ 会 歌 我らの生業
- ・ 会長挨拶
- ・ 幹事報告
- ・ 委員会報告
- 親睦委員(結婚記念日・誕生日祝)
- ニコニコ箱担当委員
- その他委員会
- ・ 卓話
- ゲスト卓話
- 「SNS広報の運営について」
- 糸魚川市役所 商工観光課 企業支援係
- 杉本 晴一 様
- ・ 点 鐘

本日のお客様

糸魚川市役所 商工観光課 企業支援係
杉本 晴一 様

次回例会プログラム

- ◇2月12日(木) 親睦事業「味覚の会」
- ◇2月19日(木) 会員卓話
- 吉川 雄太君「私の履歴書」

出席報告

◆1月29日(木) 18名

親睦委員会

◇2月誕生日(9名)

1日 大瀬 一志君	20日 佐藤 元春君
4日 松木美沙子君	歌川多喜司君
5日 田邊 榮三君	21日 猪又 勝代君
9日 松澤 和彦君	23日 長谷川淳一君
	27日 永野 克裕君

◇2月結婚記念日(1名)

3日 小田島修平君

幹事報告

◇1月29日(木) 第8回定例理事会がヒスイ王国館にて開催されました。出席者 8名
議題

1. 会員増強について
2. 2月の例会について
3. 2月の例会スタイルとプログラムについて
4. 海洋高校相撲部見学について
5. タイへの寄付金について
6. 三条東ロータリークラブ
創立20周年記念式典登録について
7. IM決算報告について
8. その他

◇夜間移動例会「味覚の会」開催案内

日 時 2月12日(木) 18:30～
会 場 煌凛丸
会 費 4,000円 ※昼例会はありません

◇第2回米山記念奨学委員長セミナー開催案内

日 時 2月14日(土) 13:30～
会 場 ホテルオークラ新潟
出席者 赤星君

◇移動例会「海洋高校相撲部激励会」開催案内

日 時 2月21日(土) 11:15～
会 場 海洋高校 相撲道場

◇2026-27年度 会長エレクトレーニングセミナー開催案内
日 時 3月28日(土)
会 場 南魚沼市民会館
会 費 5,000円
出席者 平野君、歌川君、赤星君、斉藤君

◇吉田RC創立40周年記念式典・祝賀会開催案内
日 時 4月11日(土)
受 付 12:00～
記念式典 13:00～13:40
講 談 13:50～14:30
祝賀会 14:45～16:45
会 場 燕三条ワシントンホテル
参加者 赤星君、岡島君

◇三条北RC創立40周年記念式典・祝賀会開催案内
日 時 4月18日(土)
登録受付 12:30～13:30
記念式典 13:30～14:30
記念公演 15:00～15:10
祝賀会 15:20～17:30
会 場 ジオ・ワールドビップ
参加者 赤星君、岡島君

ニコニコ箱 1月29日 *****
赤星 賢二君 小河原様、本日は卓話いただき、ありがとうございます。
長谷川淳一君 小河原先生のYouTubeのおかげでジオパーク検定で合格することができました。卓話よろしくお願いいたします。

◆中央RCコーナー
2月6日(金) 会員卓話 木島 一 君
「森の教室について」

◆個人寄付 1月29日 (2名 6,000円)

氏 名	スマイル	R財団	米山財団
赤星 賢二 君	1,000	1,000	1,000
長谷川淳一 君	1,000	1,000	1,000
合 計	2,000	2,000	2,000

1月29日の卓話 *****

ゲスト卓話

フォッサマグナミュージアム
学芸員 小河原 孝彦 様
「交流人口によるまちづくり」

今回は、日本の国石であるヒスイを通して、糸魚川のヒスイが古くからどのように使



われてきたのかについてお話しします。

日本各地には古来よりさまざまな石の産地があり、それぞれの地域で、その土地の石を使った独自の文化が育まれてきました。糸魚川のヒスイのまがたまは特に有名ですが、それ以外にも全国には「玉」として加工され、宝石のように扱われた石が数多く存在していました。

その中で糸魚川が特別なのは、世界で最も古い時代からヒスイが使われてきた地域であるという点です。今からおよそ6500年前、現在新幹線が走っている糸魚川周辺から、ヒスイで作られたハンマーが発掘されています。ヒスイは当初、道具として使われていましたが、やがて装身具、つまり宝石としても使われるようになっていきました。

糸魚川には、北陸最大級の集落跡といわれる長者ヶ原遺跡があります。現在は考古館が建てられ、ヒスイのペンダントや斧などを見ることができます。発掘された範囲は遺跡全体のごく一部にすぎませんが、それでも多くのヒスイ製品や遺物が出土しており、長者ヶ原遺跡はヒスイ交易の拠点として知られています。

糸魚川のヒスイは、縄文時代にはすでに北海道から沖縄まで流通していました。今からおよそ3000年前までには、日本の最北から最南まで行き渡っており、当時の人々にとって糸魚川のヒスイは誰もが知る存在だったと考えられます。さらに古墳時代になると、その流通は海を越え、朝鮮半島にまで広がっていきました。

また『万葉集』には、沼名川で玉を拾い求める歌が残されています。この歌は、糸魚川でヒスイの玉拾いが行われていたことを示す貴重な資料です。私がこの歌で特に重要だと感じているのは、歌に詠まれた行為と同じ体験を、現代の私たちが糸魚川で実際にできるという点です。千年以上前の人々と同じように、川原でヒスイを探し、拾い、思いを重ねることができる場所は、現代ではほとんどありません。

このような石があり、歴史と同じ体験が今も可能な場所は、世界的に見ても非常に珍しいものです。私は、そこにこそ糸魚川の交流人口を広げる力があると考えています。

神話の時代から現代まで続くヒスイの物語を大切に伝えていくことで、糸魚川を訪れ、関わる人が少しずつ増えていく。そのきっかけを、このヒスイが担ってくれればと思います。